

## 松田町立寄小学校

研究テーマ：「つながり」を深める子をめざして～言葉による見方・考え方を働かせる授業づくり～

### 1 実践の目的

本校は小規模校という特性を生かした教育活動を展開し、授業においても児童が安心できる人間関係の中で学習を進めていけるよう日々の研究に努めている。2年前から「つながり」をキーワードとして、深い学びを意識した授業づくりに取り組み、「つながり」を深める児童の姿をめざして研究に取り組んだ。授業が活発であるだけでなく、深化したり統合したり、深く「つながる」子とは、どのような姿かを整理し、実践に結び付けていこうと考えた。また、国語科では、単元の言語活動を意識することで、学んだことを生かし、より深い学びを実現できる。本校の児童にあった言語活動の設定をめざした。

### 2 実践の内容

#### (1) テーマの達成をめざした授業づくり

「深い学び」については、今年度の研究を始めてすぐ、国語科「読むこと」におけるめざす子ども像の一つとして「自ら読書を楽しめる子」と設定した。自分で進んで本を選んだり、その本のおもしろさを味わったり、同じテーマや同じ作者など幅を広げたりできることを念頭に置いたことで、各学年でどのような読みができることが深い学びとなるのかを明確にしていた。

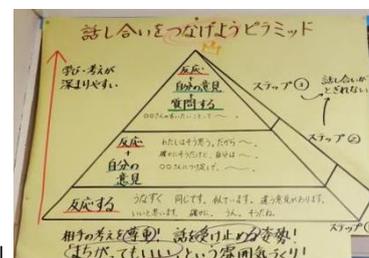
#### (2) ICT を活用した研究の充実

本年度から授業支援システムを教員間の研究でも利用することとした。指導計画を

立てる段階での気づきや単元での児童の学習の様子などを随時掲載し、全教員での情報共有や意見交換を活発に行った。研究会当日に参加する町指導主事や研究講師である元帝京大学小学校相談役 矢野英明氏ともオンラインでつながり、場合によっては相談したり、アドバイスをいただいたりすることもできた。ICT を活用することによって、集まる時間を設定しなくとも、任意の時間に課題を共有することができ、本時の協議のみとならない研究ができた。

#### (3) 「話し方・聞き方の学年別指導規準表」の活用

昨年度までに、本校児童のつきたい力を「話し方・聞き方の学年別指導規準表」



に表した。それを基に、各学年の発達段階に応じて自分たちのめあてを決め、教室掲示したり、毎時間確認したりして、話し方・聞き方を意識した。学年を見通して、めざす姿が明確になり、対話の基礎であるコミュニケーション能力が培われている。

### 3 実践の成果

#### (1) 3つの「つながり」を深める子

研究主題の「つながり」について、児童につきたい力とそこに向かうための指導者の手立てをより明確にして取り組むことができた。

### ①主体的に「つながる」子の育成

<めざす子ども像>

○学習対象と進んでつながる子

- ・学ぶ目的、学ぶ意欲をもつ。
- ・課題を自分事として意識して取り組む。

<指導の工夫>

- ・興味関心を引き出す教材の選択・導入の工夫・言語活動の設定
- ・子どもの思考に沿った授業の流れ・単元計画
- ・多様な指導法
- ・本質に迫る内省的評価

### ②対話的に「つながる」子の育成

<めざす子ども像>

○友だちとつながろうとする子

- ・一人ひとりが意見をもって議論する。
- ・目的を共有して議論する。
- ・高め合う（よりよい話し方・聞き方の）意識をもって議論する。

<指導の工夫>

- ・意見をもてるだけの豊かな学習活動の保障  
(学級の雰囲気、話し方・聞き方の指導、時間の確保、十分な音読や語句の確認)
- ・学習の目的を共有化できる手立ての工夫  
(思考を促す板書、教師の出番、共有化ツールの活用)

### ③深い学びに「つながる」子の育成

<めざす子ども像>

○学びを生かす子

- ・多様な考え方に気付く。
- ・学びの有用性を感じ広げる。
- ・納得・実感して、活用を考える

<指導の工夫>

- ・既習の知識とつなげる意識をもたせる。
- ・技能の有用性を味わわせる。
- ・生活と結び付ける。
- ・価値が理解できるようにする。

### (2)言葉の見方・考え方を働かせる授業

国語科の見方・考え方を働かせるとは、言葉に着目することである。教材や児童に付けたい力によって、言葉のどのような面に着目するかは異なる。教材研究や事前検討で視点を明確にしてきた。

視点を明確にした上で、教師の手立てとして、言語活動を設定した。音読をしたり、動作化を取り入れたり、紹介文を書いたりといった言葉の見方・考え方を働かせる学習場面を設定することが有効である。

## 4 今後の展開

### (1)初発の感想を生かした児童主体の課題づくり

初発の感想を基に学習課題を設定し、課題解決をしていくことの重要性を感じた。児童にとって与えられた課題は、自分の考えをもてなかつたり、そもそも何について考えたらよいのか自分事として捉えられなかつたりして、教師主導の授業になりがちであった。児童の初発の感想からの課題づくりは、実態にあった課題を設定して解決することができ、「物語が読めた。」「このお話は面白かった。」などの思いが生まれ、深い学びへとつなげることができる。

### (2)少人数の特色を生かした授業づくり

本校の授業づくりを考える際、少人数でどのように多様な考えを生み出し、対話につなげるかは、大きな課題となる。特に複式学級では、2学年の異なる学習内容を同時に進めていくために、担任と支援員との連携が必要不可欠である。授業の流れをパターン化したり、単元の流れを視覚化したりすることで、児童がより主体的に学習に向かうことができるよう年間を通じて取り組む必要がある。